



SEE MORE JESUS • WANTTOSEEMORE.COM

われ救われんためには何を為すべきか？ — 第2部 ・ スト ロング番号付きKJV聖句

第2部・日々続けること — 歩み、御霊のわざ、そしてあなたの子らへの約束

私は救われるために何をすべきか — その基礎

開会の言葉

「基礎」はその大いなる問いに答えた。人は信じ、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けなければならない。それからその人は続けなければならない。キリストに結び付いたままでいなければならない。そして終わりまで耐え忍ばなければならない。この学びはその答えが終わるところから始まる。救いとは、神が人を罪と死から救い出すことである。その救いは一時間のうちに始まるが、それは一日一日生きられていくものである。最初の信者たちは週に一度だけ集まったのではなかった。彼らは日々続けた。聖霊は彼らを一度だけ訪れたのではなかった。彼は教師として、案内者として、助け主として、毎日彼らと共にとどまられた。そしてその約束は彼らだけで止まらなかった。神はその約束を彼らに、そして彼らの子どもたちに、そして遠くにいるすべての者たちに語られた。この学びはその三つの扉を開く。それは日々の歩みを示す。それは信者の内における聖霊の日々の働きを示す。それはあなたの子どもたちとあなたの家に届く約束を示す。すべての節をゆっくりと読みなさい。重みを担うのは神の言葉であって、私たちの言葉ではない。

本研究が答える三つの問い:

1. バプテスマを受けた後、最初の信者たちは日ごとに何をしましたか。
2. 聖霊は信者の内側で日々何を行いますか。
3. 神の約束はあなたの子どもたちやあなたの家に及びますか。

すでに据えられた基礎 — 私は救われるために何をすべきか

基い → 人々は心を刺され → 兄弟たちよ、我らは何をなすべきか。

基 → 悔い改めて、イエス・キリストの名によりバプテスマを受け、罪の赦しを得よ → 汝ら聖霊の賜物を受けん。

土台 → 堅く立ち続ける + ぶどうの木にとどまる + 最後まで耐え忍ぶ → その者は救われる。

OPENING ANCHOR(冒頭のアンカー)

使徒行伝 2:46 そして日々心を一つにして、絶えず宮もうでをなし、家ではパンをさき、よろこびと、まごころをもって、食事を共にし、(47)神をさんびし、すべての人に好意を持たれていた。そして主は、救われる者を日々仲間に加えて下さったのである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4342 proskartereo

心を一つにして日々続け、家ごとにパンを裂き → 主は救われる者を日々教会に加え給えり。

(私の個人的な思い — この聖句の中で繰り返されている一つの言葉に注目してほしい。信者たちは日々続けており、主も日々教会に人を加えられた。この学び全体は、その一つの言葉の中を歩んでいる。)

I. 日々続けること — 日々の歩み

(私の個人的な思い — 「基礎」は、人が続けなければならないと教えていた。聖書が答えるのは「日々」であって、週に一度ではない。この書の中でいくつもの異なる声が同じ言葉を語っていることに注目してほしい。)

異なる視点、同じ場面 — 二つの福音書、一つの言葉、一つの加えられた言葉

A. マタイによる福音書 16:24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

人もし我に従い来らんとと思わば → 己を捨て + 己が十字架を負い + 我に従え。

B. ルカによる福音書 9:23 それから、みんなの者に言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

自分を捨て、日々おのが十字架を負い、われに従え。

(私個人の思感 — マタイは「自分の十字架を負い」と書き、ルカは「日々自分の十字架を負い」と書いている。この一語が加わることで、十字架は歩みの毎日の中に置かれることになる。)

C. 哀歌 3:22 主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。(23) これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。

主の憐れみは尽きることなく → 朝ごとに新しい + あなたの真実は大いなるかな。

(私個人の思感 — 憐れみとは、私たちが受けるに値しない神の慈しみである。神はその憐れみを朝ごとに新しくしてくださる。信じる者は、歩みの日々においてその新しい憐れみを必要とする。)

D. イザヤ書 50:4 主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教をうけた者のように聞かせられる。

主は朝ごとにわが耳をさましたまう → 学ぶ者のごとく聞かせんために、わが耳をさましたまう。

E. 箴言 8:34 わたしの言うことを聞き、日々わたしの門のかたわらでうかがい、わたしの戸口の柱のわきで待つ人はさいわいである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H8245 shaqad

わたしの言うことを聞き → 日々わたしの門のかたわらでうかがい + わたしの戸口の柱のわきで待つ人はさいわいである。

F. 使徒行伝 17:11 ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受け入れ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G350 anakrino

心より喜びて御言葉を受け + 日々聖書を調べたり。

(私自身の思い — 高貴な聞き手たちは、素直な心をもって御言葉を受け入れた。そして彼らは、聞いたことを毎日、聖書に照らして確かめた。この学びのすべての一行も、同じように確かめなさい。)

G. マタイによる福音書 6:9 だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。(10) 御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。(11) わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

天にましますわれらの父よ → 日ごとの糧を今日もお与えください。

(私の個人的な思い — イエスは弟子たちに、一日分のパンを求めるように教えられた。この祈りは今日のための分を求めるもので、蓄えの全部を求めるものではない。神は体を養うのと同じように、一日一日、歩みを養われる。)

H. 詩篇 68:19 日々われらの荷を負われる主はほむべきかな。神はわれらの救である。〔セラ

主はほむべきかな → 日々われらの荷を負いたまう = われらの救いの神。

(私個人の思感——主は日々与えてくださる。主は同じ呼吸の中で私たちの救いの神と呼ばれている。救われた命とは、神によって一日一日担われていく命である。)

II. 日ごとの聖霊——慰め主があなたに教えてくださる

(私自身の考え — 基礎講座は「あなたは聖霊を受けましたか」と尋ねた。この項は、その日の後に聖霊が何をなさるかを示している。これらの節にある動詞に注目しなさい。なぜなら、そのどの働きも一度限りの働きではなく、日々の働きだからである。)

A. ヨハネによる福音書 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3875 parakletos ・ ■ G1321 didasko

助け主=聖霊 → 彼はあなたがたにすべての事を教え、+ すべての事を思い出させてくださる。

(私の個人的な思い — 聖霊は「慰め主」と呼ばれている。この名は、助けるためにあなたのそばに呼び寄せられた者という意味である。彼は、教師がクラスに日々会うように、信者に日々教えられる。)

B. ヨハネによる福音書 16:13 けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3594 hodegeo

真理の御霊 → 彼はあなたがたをすべての真理に導く。

C. ローマ人への手紙 8:14 すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

すべて神の御霊に導かれている者は=神の子である。

(私自身の思い——導く方は一度指し示してそれで去るのではない。彼は帰り道の全行程、あなたの前を歩んでくださる。導かれるとは、完了した出来事ではなく、現在進行形の日々の状態である。)

D. ローマ人への手紙 8:16 御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4828 summartureo

御霊みずから、わたしたちの霊と共に → わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

(私自身の考え — この節では二つの霊が会う。神の御霊と、あなた自身の人間の霊である。神の御霊は、あなたがそれによって神の子であることを、あなた自身の霊に告げる。その静かな日々の証しこそ、あなたが受けた賜物の一部である。)

E. ローマ人への手紙 8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4878 sunantilambanomai ・ ■ G5241 huperentugchano

御霊もまた我らの弱きを助けたまい → 我らのために執り成したもう。

(私自身の思い——ある日、信じる者は祈るべき言葉を見出せないことがある。まさにその日に、神の御霊が信じる者のために祈ってくださる。あなたが最も弱い日も、決してひとりで歩むのではない。)

F. ガラテヤ人への手紙 5:16 わたしは命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4043 peripateo

御霊によって歩みなさい。 → そうすれば、肉の欲を満たすことはありません。

G. ガラテヤ人への手紙 5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、(23) 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2590 karpōs

御霊の実 = 愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、誠実、柔和、節制。

(私自身の思い——実は木に一晚で現れるのではない。生きた枝の上で、多くの日々をかけて育つ。ここに、ぶどうの木につながり続ける枝に育つものを記す。)

H. ガラテヤ人への手紙 5:25 もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4748 stoicheo

もしわたしたちが御霊によって生きるのなら→また御霊によって進もうではないか。

I. ピリピ人への手紙 2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。(13) あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2716 katergazomai ・ ■ G1754 energeo

恐れ戦きて己が救いを全うせよ→汝らの内にて働きて志を立てさせ、事を行わせ給うは神なり。

(私個人の思感—あなたは自分の救いを日々成し遂げていく。神は同時にあなたの内側で働いてくださる。神は願いも力も共に与えてくださる。)

J. コリント人への第一の手紙 6:19 あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。(20) あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3485 naos

汝らの体は、汝らの内にいます聖霊の宮なり→汝らは代価をもて買われたる者なり→汝らの体をもて神の栄光を顕せ。

(私自身の思い—古代において、神の臨在がとどまる唯一の家は宮であった。今やあなたの体がその家である。聖霊はそこに、通り過ぎる客としてではなく住んでおられる。)

K. ユダの手紙 1:20 しかし、愛する者たちよ。あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、(21) 神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2026 epoikodomeo

いと聖き信仰の上に己を建て上げ、聖霊によりて祈り→神の愛のうちに己を守れ。

(私自身の思い—建築家は一つ一つ石を積みながら、幾日もかけて家を建て上げる。ユダは四つの日々の働きを挙げている。すなわち、信仰の上に自らを築き上げること、聖霊によって祈ること、神の愛のうちに自らを保つこと、そして主イエス・キリストの憐れみを待ち望むことである。これらの働きはどれも、ごく普通の一日の中に収まるものである。)

III. 約束はあなたがたと、あなたがたの子らに与えられている

(私個人の思感—さて、この約束の及ぶ範囲を測ってみよう。それはあなたに、あなたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に及ぶ。この段落は、その約束をあなた自身の家にまで追っていく。)

A. 使徒行伝 2:39 この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1860 epaggelia

約束は汝らと汝らの子孫、また遠くにある凡ての人々とに与えられたり→主なる我らの神の召し給う程の者に。

(私個人の考え—ペテロは教会が始まったその同じ日にこれを説教した。彼が語った約束とは聖霊の賜物である。この聖句はその約束の中にあなたの子どもたちを名指ししているので、信じる父や母がひとりだけで望みを抱くことはない。)

異なる視点、同じ場面—預言者がそれを記し、使徒がそれを宣べた

B. ヨエル書 2:28 その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H8210 shaphak

われわが霊をすべての肉なる者に注がん→なんじらの息子娘は預言せん。

C. 使徒行伝 2:17 『神がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。』

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1632 ekcheo

終りの日に→わたしはわたしの霊をすべての肉なる者に注ぐ→あなたがたのむすこ娘は預言をする

(私個人の考え—ヨエルは「その後」と書いた。ペテロは成就のただ中に立っていたので、「終わりの日に」と言うことができた。どちらの記録も息子たちと娘たちを名指ししており、その約束は初めから家族全体を包み込むほど広がった。)

D. イザヤ書 44:2 あなたを造り、あなたを胎内に形造り、あなたを助ける主はこう言われる、『わがしもべヤコブよ、わたしが選んだエシュルンよ、恐れるな。(3) わたしは、かわいた地に水を注ぎ、干から

びた地に流れをそそぎ、わが霊をあなたの子らにそそぎ、わが恵みをあなたの子孫に与えるからである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H3332 yatsaq ・ ■ H2233 zera

我はわが霊をなんじの子孫に注ぎ + わが祝福をなんじの末に与えん。

(私自身の思い——ペテロが宣べ伝えるよりも数百年も前に、神はすでに同じ二つのことを同じ二つの集団に約束しておられた。すなわち、注がれる御霊と、それを受ける種である。ペテロが教会の始まりにおいて差し出したものは、時に適って到来した神の古くからの約束であった。)

E. 申命記 6:6 きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、(7) 努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H8150 shanan

これらの言はなんぢの心にあるべし → 勤めてこれをなんぢの子らに教へよ + 家にありてこれを語り + 途を歩む時も

(私自身の思い——約束は親の口を通して子どもたちに届く。モーセはその教えを語るべき時を、家にいる時、道を歩く時、夜、そして朝と挙げている。この一覧は一日全体を覆っており、それゆえ日々の歩みと子どもたちへの教えとは一つの生活なのである。)

F. 詩篇 78:4 われらはこれを子孫に隠さず、主の光栄あるみわざと、その力と、主のなされたくすしきみわざとをきたるべき代に告げるであろう。(5) 主はあかしをヤコブのうちにたて、おきてをイスラエルのうちに定めて、その子孫に教うべきことをわれらの先祖たちに命じられた。(6) これは次の代に生れる子孫がこれを知り、みずから起って、そのまた子孫にこれを伝え、(7) 彼らをして神に望みをおき、神のみわざを忘れず、その戒めを守らせるためである。

それを子どもたちに知らせる → 生まれ出る子どもたちが立ち上がり、それを自分の子どもたちに告げ知らせる → 彼らが神に望みを置くようになるため。

(私自身の考え——この詩篇の中で世代の数を数えてみなさい。父たちは子どもたちに教え、その子どもたちはまだ生まれていない子どもたちに教える。その語り伝えることこそ、約束が渡って行く橋である。)

G. 箴言 22:6 子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2596 chanak

子をその行くべき道に従って教えよ → そうすれば年老いても、それを離れることがない。

H. ヨシュア記 24:15 もしあなたがたが主に仕えることを、こころよしとしないのならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。

汝ら今日いずれに事えんかを選べ → 我と我が家とは主に事えん。

(私個人の考え——ヨシュアは自分ひとりのために答えたのではなかった。彼は自分の全家をその選択の中に置いた。父や母は今日でも同じ場所に立ち、自分の戸口の上で同じ言葉を語ることができる。)

I. 使徒行伝 10:1 さて、カイザリヤにコルネリオという名の人がいた。イタリヤ隊と呼ばれた部隊の百卒長で、(2) 信心深く、家族一同と共に神を敬い、民に数々の施しをなし、絶えず神に祈をしていた。

コルネリオ → 全家族と共に神を敬い、いつも神に祈っていた。

J. 使徒行伝 16:34 さらに、ふたりを自分の家に案内して食事のもてなしをし、神を信じる者となったことを、全家族と共に心から喜んだ。

彼は喜んだ → 全家をもって神を信じた。

(私個人の考え——「土台」はこの人の物語を、夜中のバプテスマに至るまで語った。ここにはその同じ夜の続きの聖句がある。太陽が昇る前に、全家が共に信じ、喜んだ。)

K. 使徒行伝 18:8 会堂司 クリスポは、その家族一同と共に主を信じた。また多くのコリント人も、パウロの話を聞いて信じ、ぞくぞくとバプテスマを受けた。

クリスポは全家族と共に主を信じた。そして多くの人々が聞いて信じ、バプテスマを受けた。

(私自身の考え——これら三つの記録における家々の数を数えてみなさい。コルネリオの家、獄吏の家、クリスポの家である。神は一人ひとりを救われるが、また家全体をも集められる。あなた自身の家をもその列に加えなさい。)

L. テモテへの第二の手紙 1:5 また、あなたがいだいている 偽りのない信仰 を思い起している。この信仰は、まずあなたの 祖母 ロイスとあなたの 母 ユニケとに 宿ったものであったが、今 あなたにも 宿っていると、わたしは 確信 している。

原語キー / **STRONG** S: ■ G505 anupokritos

偽りなき信仰 → まず汝の祖母ロイス、また汝の母ユニケに宿りしが → 汝のうちに宿れり。

M. テモテへの第二の手紙 3:14 しかし、あなたは、自分が 学んで 確信 しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから 学んだか 知っており、(15) また 幼い時から、聖書に 親しみ、それが、キリスト・イエスに対する 信仰 によって 救に 至る 知恵を、あなたに 与える 書物であることを 知っている。

原語キー / **STRONG** S: ■ G3306 meno

汝の学びし事に留まれ → 幼き時より聖書を知れり → 救いに至る知恵あり。

(私自身の考え — 信仰が祖母ロイスから母ユニケへ、そして子テモテへと伝わっていく様子を見よ。パウロがテモテに「続けよ」と告げたときに選んだ言葉に注目せよ。それは「基礎」課程でぶどうの木につながり続けることについて教えられた、同じギリシャ語である。)

二人の口

申命記 7:9 それゆえあなたは 知らなければならない。あなたの 神、主は 神にましまし、真実の 神にままして、彼を 愛し、その 命令を守る 者には、契約を守り、恵みを 施して 千代に 及び、

原語キー / **STRONG** S: ■ H1755 dor

真実なる神 → 契約と憐れみを守りたもう → 千代に至るまで。

詩篇 103:17 しかし 主のいつくしみは、とこしえからとこしえまで、主を 恐れる 者の上に あり、その 義は 子らの子に 及び、(18) その 契約を守り、その 命令を 心にとめて 行う 者にまで 及び。

原語キー / **STRONG** S: ■ H2617 chesed

主の憐れみは永遠から永遠にまで → その義は子らの子に至る。

イザヤ書 59:21 主は 言われる、「わたしが 彼らと 立てる 契約はこれである。あなたの 上にある わが 霊、あなたの 口においた わが 言葉は、今から 後とこしえに、あなたの 口から、あなたの子らの 口から、あなたの子らの 子の 口から 離れる ことはない」と。

原語キー / **STRONG** S: ■ H1285 berith

わが霊、わが言葉 → 汝の口よりも、汝の裔の口よりも、汝の裔の裔の口よりも離れず → 今よりとこしえまで。

コリント人への第二の手紙 13:1 わたしは 今、三度目にあなたがたの 所に行こうとしている。すべての 事がらは、ふたりか 三人の 証人の 証言によって 確定する。

原語キー / **STRONG** S: ■ G3144 martus

すべての事からは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。

(私自身の思い — 三人の証人がこの約束を一生涯を越えて広げている。モーセは「千代に至るまで」と言い、ダビデは「子らの子に至るまで」と言い、イザヤはその言葉をあなたの子孫の子孫の口にも、とこしえに運んでいる。二人または三人の証人の口によって、事は確定するのである。)

影と実現

(私自身の考え — 地面に映る影には確かな形があるが、その形だけでは、光がその実体を示すまで、何が影を落としているのかを教えてはくれない。旧約聖書に描かれる数々の型は、実在するからだによって落とされた真の影であり、そのからだとはキリストのことである。とはいえ、影はそのものの本当の姿ではない(コロサイ人への手紙2章17節、ヘブル人への手紙10章1節)。それゆえ、私たちは決して影だけに教えるを築いてはならず、新約聖書の光がその影を落としたからだを示してくれたときのみ、それを影と呼ぶべきである。)

Shadow 出エジプト記 16:4 そのとき 主はモーセに 言われた、「見よ、わたしはあなたがたのために、天からパンを 降らせよう。民は 出て 日々の 分を 日ごとに 集めなければならない。こうして 彼らがわたしの 律法に従うかどうかを試みよう。

原語キー / **STRONG** S: ■ H4305 matar

天からのパン → 日ごとに一定の分量を集める → 彼らがわたしの律法に歩むか否か。

Shadow 出エジプト記 16:21 彼らは、おのおのその食 べるところに従って、朝ごとにそれを集めたが、日が熱くなるとそれは溶けた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H1242 boqer

彼らは、おのおのその食 べるところに従って + おのおのその食 べるところに従って。

Fulfillment ヨハネによる福音書 6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。(33) 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。

わが父は天よりの真のパンを汝らに与えたもう → 世に命を与えたもう。

Fulfillment ヨハネによる福音書 6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G740 artos

「わたしが命のパンである → わたしに来る者は決して飢えることがなく、

(私自身の考え——古代、イスラエルは朝ごとに天からのパンを集め、その日一日分の分け前を得た。その日々のパンは影であり、イエスはその影を落としたからだであって、いのちのパンご自身が信じる者のいのちを養い、保ってください。だから、朝ごとに彼の分け前を受け取り、日々みことばを読み、日々祈り、日々歩み続けなさい。)

閉会

詩篇 102:28 あなたのしもべの子らは安らかに住み、その子孫はあなたの前に堅く立てられるでしょう。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7931 shakan ・ ■ H3559 kun

あなたのしもべの子らは安らかに住み + その子孫はあなたの前に堅く立てられるでしょう。

テサロニケ人への第一の手紙 5:23 どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。(24) あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであろう。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G37 hagiazo ・ ■ G4103 pistos

どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように → あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであろう。

(私自身の考え——この学びが示したのは、答えに続くいのちであり、日々の歩みであり、聖霊の日々の働きであり、そしてあなたの子どもたちとあなたの家全体にまで及ぶ約束であった。神は今日、道のすべてを終わらせるようにとは求めておられない。神が求めておられるのは、今日、神とともに歩むことである。そして、あなたを召してくださった神は真実であり、それを成し遂げてくださる。)

練習クイズ

1. 使徒行伝2章47節 — 主は日々教会に加えられた、

- a) 喜びと真心をもって
- b) 救われる者たち
- c) 喜んでみことばを受け入れた者たち

人もし我に従い来たらんと思わば、己を捨て、

- a) 日々自分の十字架を負って、私に従う
- b) 自分の十字架を負って、私に従う
- c) あなたの持っているものをすべて売って、貧しい人々に与えなさい

3. ヨハネ14:26 — しかし助け主、すなわち父がわたしの名によって遣わされる聖霊は、彼が

- a) あなたがたをすべての真理に導く
- b) 世の罪を責める
- c) あなたがたにすべての事を教える

4. ローマ人への手紙8章26節 — 我らは如何に祈るべきかを知らねど、御霊みずから:

- a) 私たちの弱さを助けてくださる
- b) 言いがたい嘆きをもって、わたしたちのためにとりなしてくださる
- c) 私たちの霊とともにあかしする

5. 使徒行伝2章39節 — この約束は、あなたがたと、あなたがたの子どもたちと、

- a) 千代に至るまで
- b) イスラエルの全家に
- c) 遠くにいるすべての者たちに

6. 申命記6:7 — なんぢ勤めてこれを汝の子等に教へ、家に坐する時も、路を歩む時も、

- a) あなたが家に座している時
- b) あなたが起きる時
- c) あなたが道を歩いている時

7. イザヤ書59章21節 — わが霊、なんぢの上にあり、わが言、なんぢの口に置きたるものは、なんぢの口より離れず、なんぢの子孫の口よりも離れじ。

- a) 子孫の子孫に至るまで
- b) またあなたの子孫の子孫の口からも
- c) 代々にわたって

解答:1-b、2-a、3-c、4-b、5-c、6-a、7-b

このスタディの分岐

→ 影がどのように光をもたらすか:イスラエルは毎朝天からのパンを集めた(出エジプト記16章21節)。イエスは天からの真のパンであり、ヨハネによる福音書6章全体がその絵をいっぱいにかいている(ヨハネによる福音書6章32-35節)。これはそれ自体の学びのために備えられている。

→ 新しい契約がそれをどのように説き明かすか。モーセは親たちに、その言葉を子どもたちに勤めて教えるようにと告げた(申命記6:7)。新約聖書は、一つの家族の三世代が一つの信仰を保っていたことを示している。ロイス、ユニケ、テモテである(テモテへの第二の手紙1:5)。

→ 言葉の重みについて: テモテ後書3章14節の「継続する」という言葉は、ヨハネの福音書がぶどうの木につながり続けることを表すのに用いる、同じギリシャ語である。幼い頃から聖書を教えられた子は、根付いていられる場所に植えられている。

→ ユダヤ人にも異邦人にも同様であること:この約束は、あなたがたと、あなたがたの子どもたちと、遠く離れているすべての者に与えられている(使徒行伝2:39)。異邦人コルネリオは、その家族すべてと共に神を敬っていた(使徒行伝10:2)。そして御言葉を聞いていたすべての者に聖霊が下った(使徒行伝10:44)。

→ あなたにどう当てはまるか:慰め主はあなたに教え、イエスの言葉をあなたの記憶にのみがえらせてくださる(ヨハネ14:26)。神の御霊が日々教えてくださることを、日々歩みなさい(ガラテヤ5:25)。

→ それが永遠に及ぶこと:主の恵みは、とこしえからとこしえまで、その義は子孫の子孫に及ぶ(詩篇103:17)。神のしもべたちの子どもたちは生き残り、その子孫は神の前に確立される(詩篇102:28)。

→ 脱線考察: 御霊は私たちのために内側でとりなしをなし(ローマ8:26)、キリストは神の右にあって私たちのためにとりなしをなす(ローマ8:34)。一人の信者のために二人の執り成し手があり、一人は内にあり、一人は上にあって、それ自体別の研究に値する。

→ あり得る啓示:神は民がその律法に従って歩むかどうかを試みるため、日ごとに一定の分量のパンを与えられた(出エジプト記16:4)。日々の分量そのものが、歩みの試しであった。主は今も日ごとに与えられ、その民が日々主に従うようにされる(ルカによる福音書9:23)。

SOURCES & CREDITS

Scripture: Kougo (Colloquial) (Public Domain (1955 口語訳聖書 — Japan Bible Society's own copyright page confirms the copyright protection period has ended; see registry/JAPANESE_LEGAL_PATH.md. Moral/integrity rights are preserved under Japanese law, so the text is rendered verbatim only, never altered -- pipeline.VERBATIM_LANGS.)) — a redistributable edition, looked up exactly and never machine-translated.

Alternate chapter/verse numbering reconciled with STEP Bible TVTMS (CC BY 4.0).

Strong's numbering & original-language data: OpenScriptures Hebrew Bible (CC BY 4.0); STEP Bible.org — TAHOT/TAGNT/TBESH/TBESG (CC BY 4.0); Robinson-Pierpont Byzantine Majority Text (Public Domain); Strong's dictionary, 1890 (Public Domain).

Typography: Google Noto fonts (SIL Open Font License 1.1).

© SEE MORE JESUS • wanttoseemore.com — shared under Creative Commons Attribution 4.0 (CC BY 4.0).